

9 家畜衛生（表Ⅱ-10）

乳房炎の発生は例年に比べると少なかったが、12月以後にやゝ増加傾向にあった。

放牧期に小型ピロプラズマ病で5頭発病した。

牛肺虫は依然として草地の汚染状態が続いており、秋口に多く検出された。

BLVの牧区別陽転率は表Ⅱ-10の通りであった。

綿羊の死傷事故は相変わらず多く、その主なものは、腰麻痺19、栄養失調8、子年筋硬変症3、日射病2、その他鳥害等であった。

また肥育牛に尿石症が多発し、1頭斃死、2頭を途中で出荷した。

表Ⅱ-10 59年度BLV陽転率

牧 区	入 牧 時		放 牧 後 ※			
	頭 数	陽性率	検査数	陽転(%)	疑陽転(%)	陰性(%)
六 角	69	30.4%	51	24 (47.1)	3 (5.9)	24 (47.1)
桂 清 水	33	81.8	7	5 (71.4)	0 (0)	2 (28.6)
尚 武 沢	53	0	53	7 (13.2)	7 (13.2)	39 (73.6)
長 原	7	0	7	1 (14.3)	2 (28.6)	4 (57.1)
大 尺	11	0	11	0 (0)	1 (9.1)	10 (90.9)
計	173	27.7	129	37 (28.7)	13 (10.1)	79 (61.2)

※ 入牧時除性牛及び入牧後出生子牛（6月末まで）、判定は60年3月血清

10 その他

- 1) 6月2種雄牛の運動場を整備し、ラウンダーを設置した。
- 2) 60年1月にミルクパーラの乳量計を更新した（オリオン機械、デジタルミルクメーター）

太 田 実 ・ 二 瓶 章 ・ 鎌 田 弘 人
 高 橋 久 ・ 遠 藤 忠 雄 ・ 本 郷 至
 遊 佐 文 博 ・ 中 鉢 広 ・ 小 林 茂 太 郎